

東毛見聞録

進化するニューズレター

第8号
編集制作
東毛見聞録編集部
発行
zerotop design works

上州太田焼そば

かわとみ

太田発「B級グルメ」
焼そばでチャレンジ!!!



世の中、何が流行するかわからない。今、ひそかなブームになっているのが、値段が安く手軽に食べられる「B級グルメ」の数々。太田市の「B級グルメ」といえば、やはり上州太田焼そばだろう。上州焼そばのれん会加盟店の一つである太田市強戸町の「かわとみ」さんは、太田焼そばの美味しさを広めるべく奮闘中だ。

「かわとみ」さんは、定番の「焼そば」(300円)はもちろん、黒こしょうでさっと焼いた豚バラ肉をたっぷりのせた「豚バラ焼そば」(600円)、ジュシーな鶏モモ肉がくせになるとり弁「上州御触れ弁当」(500円)など、アイデアと愛情をたっぷり込めたお弁当・お惣菜を取りそろえている。

その中でも、注目なのが地元太田産の新鮮な茄子を蒲焼き風にアレンジした「なすの蒲焼き重」だ。



●なすの蒲焼き重 600円
「茄子を蒲焼きにする」というアイデアが活きたオリジナル商品。

こちらは「上毛新聞みのりくらぶ第4回ぐんまふるさとレシビ大賞」で特別賞を受賞した一品。ふっくら香ばしい焼き茄子とうなぎのタレがからんで、ご飯が進むこと間違いなし。野菜を使ったヘルシーさも魅力で、女性からの人気も高い。

ホームページを準備中
インターネットで通信販売も

店舗での通常営業、県内で行われる各種イベントへの出店など忙しい日々を送る「かわとみ」さんだが、「もっともっと太田の焼そばを多くの人に知ってもらいたい」という思いから、ホームページの公開を決断。さらにインターネットを使った焼そばの通信販売を始める予定だという。

「今、いろいろと計画を練っていると。全国の皆さんにかわ



●上州御触れ弁当 500円

とみの焼そばを手軽に味わってもらえるようにしたいね」と社長の川田富勇さんは夢を語る。

通信販売に使用する包装紙も完成し、準備は着々と進行している。「かわとみ」さんのホームページは、現在ゼロトップデザインワークスで制作中。年内の運営開始を目指し、作業が行われている。完成、公開までもう少しお待ちいただきたい。

庶民の味「B級グルメ」で街おこし。「太田の焼そば」が、かわとみから全国へ羽ばたく。

上州太田焼そば かわとみ

〒373-0004
群馬県太田市強戸町178-2
TEL.0276-37-1390(代)
FAX.0276-37-7012
営業時間 AM11:00~PM2:30
定休日 木曜日・日曜日



社会 石原印房さん

を採訪する。

○あなたの街のハンコ屋さん

大間々に根を下ろして創業70年以上。地域密着を掲げて印鑑の製造・販売を行う石原印房さんは、みどり市役所大間々庁舎の近く、昔ながらの町並みが残る静かな住宅街にあった。2008年の年末、東京や大阪で印刷・デザインの仕事をしていた佐飛さんが帰郷。二代目店主の美恵子さんから引き継ぎ、三代目としてお店を切り盛りしている。

佐飛さん 「まず手始めに、コンピュータや機械彫りの装置を導入することから始めました」

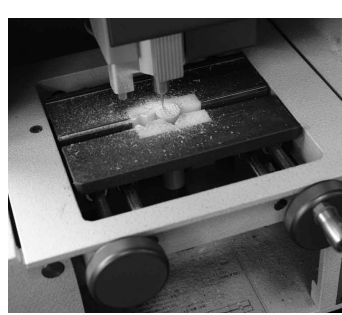
印鑑の作成には、大きく分けて、人の手で彫刻する「手彫り」と機械で彫刻作業を行う「機械彫り」がある。石原印房さんでは、「手彫り」は、山梨在住の一級彫刻師に依頼。対して、「機械彫り」は、お店に設置されている装置を使い、その場で加工をしている。

佐飛さん 「印影にはルールがありません。中には、おまかせで好きなようにデザインしてしまうお店もありますが、当店では、実際に作業画面をお見せして、お客様の意見をうかがったり、

こちらからアドバイスをしながら作り上げて行きます」

「試しに一つ作ってみましょう」と、三代目がパソコンの前に移動。ソフトを立ち上げて、記者の名前を打ち込む。「ここをこうして、そっちを大きく」などと相談をしながら5分も経たないうちに、どこからどう見ても立派な印影が完成した。

専用の機械に素材となる印鑑をセットし、彫刻作業スタート。細いハリのついたアームが左右に動き、みるみるうちに印鑑が彫られていく。



美恵子さん 「一本出来上がるのに20~30分程度。その間、店内でおしゃべりをしたり、ちょっと買い物に行ったり来ると、お客様もいらっしやいますよ」

創設者である祖父は、腕の立つ彫り師であったという。その意志を受け継ぎ、この時代にあっても「印鑑屋らしさ」を何より大切にす。

佐飛さん 「お客様の希望をしっかり聞くことはもちろん、品質、スピードなどあらゆる面でお客様を満足させたい。手彫りであっても機械彫りであっても、品質にはとことんこだわります。印影のデザインは、祖父が彫ったものや、有名な先生の作品を見て猛勉強中です」

こだわるのは、印鑑の材質について。同じ。つげ、楓、水牛、象

牙など様々あるが、品質の良し悪しによって、耐久性がまったく違ってくるそう。そういう点では、選択肢が多く、様々なアドバイスをもらえるのも専門店ならではのメリットだろう。

佐飛さん 「専門店には、値段が高い、時間がかかるというイメージがあるようですが、そんなことはまったくありません。今、仕事がだんだん面白くなってきました。地域一番店はもちろん、2店舗目、3店舗目を出店を目指して頑張っていますね」

インターネットをしている間に、あつという間に印鑑が出来上がった。(完成した印鑑は、記者が大切に使用している)

佐飛さん 「ぜひ、お気軽にお越しください。場所が分からない場合は、こちらからうかがいますよ」

伝統を守りつつ、着々と革新を進める「若旦那」のチャレンジは、まだ始まったばかりだ。



石原印房

〒376-0101
みどり市大間々町大間々965
TEL/FAX.0277-72-3618

・認め印 ¥50~
・実印・銀行印 ¥1,200~

印鑑の他に、名刺やチラシ、封筒などの印刷物も取り扱っています。